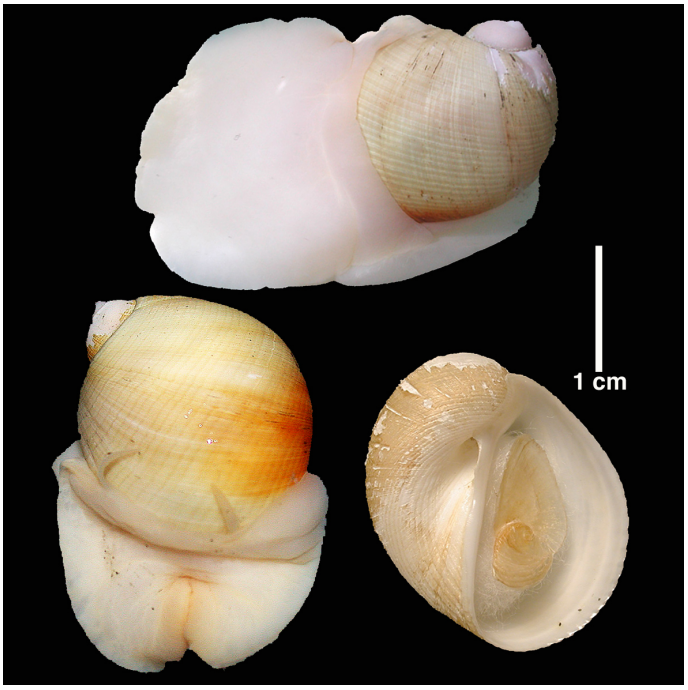
ネコガイ　*Eunoticina papilla* (Gmelin)

【選定理由】

本種は内湾の泥質干潟から潮下帯にすむ。県内では、干潟と共に内湾域の潮下帯の環境は上部の干潟の破壊や浚渫、貧酸素水塊の発生、水質汚濁などで急速に悪化していて、この生息帯の貝類相が著しく単純化している。本種は 1960 年代には三河湾奥部の干潟周辺に普通に見られたようであるが（愛知県科学教育センター，1967）、1990–2000 年にかけて死殻は各地で散見されるが、生貝が確認されている場所は稀であった（木村, 1996；木村, 2000）。その後の調査でも生息が確認される場所は少ない。引き続き絶滅の可能性が高い種であると評価された。



蒲郡市三谷地先人工干潟, 2005 年 7 月 21 日，木村昭一採集

【形　態】

殻径約 30 mm の洋なし型で殻はやや厚い。殻表は細かい螺溝が刻まれ白色、生時には薄い淡褐色の殻皮で覆われる。蓋は革質で殻口より小さく、大きさの異なる半円を組み合わせたような形をしている。

【分布の概要】

【県内の分布】

上述したように県内で死殻は比較的広範囲で採集されるが、生貝は少ない。蒲郡市三谷地先人工干潟で一時的に比較的多くの生貝（図示画像）が採集された（木村, 2005）が、その後の調査でも生貝が確認されることは稀である。

【世界及び国内の分布】

日本、朝鮮半島、中国大陸、インド洋、太平洋。国内では房総・男鹿半島以南～南西諸島に分布する（木村, 2012）。

【生息地の環境／生態的特性】

【選定理由】の項参照。本種は潮間帯にも分布するが水深 20 m までの潮下帯にも分布し、二枚貝類の殻に穴を開けて捕食する。

【現在の生息状況／減少の要因】

上述したように現在でも三河湾奥から湾口部にかけて比較的新鮮な死殻は採集できるが、生貝はきわめて稀である。

【保全上の留意点】

内湾の潮下帯の環境を保全する。干潟の保全や、内湾域の水質の富栄養化を防止することが不可欠である。

【引用文献】

愛知県科学教育センター, 1967. 愛知の動物. 222pp.
木村昭一, 1996. ドレッジによって採集された日間賀島南部海域の底生動物. 研究彙報(第 35 報):3–19. 全国高等学校水産教育研究会.
木村昭一, 2000. 伊勢湾･三河湾でドレッジによって採集された貝類(予報). かきつばた, (26): 18–20.
木村昭一, 2005. 蒲郡市三谷町人工干潟の貝類相 続報. かきつばた, (31): 29–31.
木村昭一, 2012. ネコガイ, p. 57.in：日本ベントス学会（編）干潟の絶滅危惧動物図鑑 - 海岸ベントスのレッドデータブック, 285pp. 東海大学出版会, 秦野.

（木村昭一）